

日の出の時間が徐々に早くなることを感じます。寒さはピークを迎えますが、季節は確実に変わってきています。

1月24日は、3歳以上児クラスの生活発表会がありました。どのクラスも、どの園児もきらきらと輝いていました。一人一人がしっかりと自分を表現し、やりたいことに取り組み、披露したいことを表現していました。一人一人が成長している姿が見られて、本当に嬉しい限りです。当日、ご観覧に来てくださった保護者の皆様、あたたかい応援をありがとうございました。

さて、2月のめあては、「豊かに」です。3歳未満児は、生活発表会を目標に、活動に取り組んでいます。これを経験すると、さらに心身ともに充実感を感じることでしょう。園生活が豊かなものになるように、しっかりと保育環境を整えていきたいと思います。



かるた大会

1月9日(金)、れもんぐみは、かるた大会を開催しました。

近年は、かるた遊びをご家庭で楽しむという話は聞かれなくなっています。日本の古来の遊びを伝承していくためにも、ぜひ残していきたい遊びの一つと捉えています。

今年は、3グループに分かれて、それぞれのグループの中での個人戦として対決しました。どのグループでも接戦でしたが、みんな静かに闘志を燃やす気質のようで、静まり返った厳かな雰囲気の中での戦いでした。毎年様々な色があつてとても楽しい大会でした。



“あれ？ どっち？！”



“とった！！”



“それだ！”



“えへへ～ ひとりがち～”



ステージでかりんぐみが見守っています



“はい、わたし！”



けっかはっぴよ～～う



“なんかてれるなあ”



🏆 金メダルです 🏆



表彰台に乗れました



生活発表会（3歳以上児クラス）

1月24日（土）、すももぐみとかりんぐみ、れもんぐみは、生活発表会がありました。多目的ホールで過ごす機会が多くなり、3クラスの園児が顔をあわせる機会が増えました。お互いに発表する内容を見せあったりして、成長を感じ取れるひとときとなりました。

実は、いちごぐみやあんずぐみ、きういぐみもその様子を何度も見に来ていました。年上のクラスの園児を目の当たりにし、素敵な姿を焼き付けたことと思います。

さて、生活発表会当日。今年は稀に見る光景が広がりました。それは、園児の姿に涙する保護者の方が多かったこと！ 本当に嬉しい限りでした。どのような思いで涙を流したのか……。保護者の方の実際の連絡帳から読み解いていきたいと思います（一部修正を加えています）。

- つい数か月前は（なわとびを）5回も跳べず、ジャンプもバタバタしていたのに、久しぶりに見るとジャンプはとても上手にスムーズに飛べていて成長の驚きと感動で思わず泣いてしまいました。
- 「ママに見せたくて一番に（前回り）を回った」と言っていて感動しました。
- 1年前と比べても、みんなが1年間でたくましく、りしく成長しているのがとても分かりました。そして、お互いを助け合える仲の良さも改めて感じた発表会でした。
- 台詞をすらすら言っていたり、リズムに合わせて演奏や歌を歌っているのを見て成長を感じました。「今日が一番上手にできた！」とニコニコでした。
- すももぐみみんなが頑張った感動の発表会でした。毎日の成果が見られて本当にかっこよかったです。かりんさん、れもんさんの発表もさすがだなと、未来の我が子の姿に重なってまた涙でした。
- れもんぐみのAくんのお父さんが、縄とびを数えて泣いているのを見て、もらい泣きをするくらい感動しました。親にとって子どもの成長は生きがいですね！

他にもたくさんの同様な感想をいただいています。このように、我が子の成長で感動するだけでなく、今年は、他のクラスの園児の姿を見て感動された保護者の方がとても多いことに胸を打たれました。「子育ては社会全体で行うもの」ということが、このキッドワールドセカンドこども園では実践できているのではないかと思います。これからも、保護者の皆様のご支援をたまわりながら、協同で教育・保育活動を充実していけたらと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

＜今後の予定＞

- 2月 3日(火) まめまき
- 2月 9～13日 身体計測週間(すもも・かりん・れもんぐみ)
- 2月14日(土) 生活発表会(いちご・あんず・きういぐみ)、お弁当日
- 2月16～20日 身体計測週間(いちご・あんず・きういぐみ)
- 2月24日(火) 健康診断
- 2月25日(水) 誕生会



○ 3月21日(土) 卒園式

コラム 76：子どもが望む大人の世界④ ～17の子どもの願い～

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

—— 前回までに都合で紹介しきれなかった「⑩子どもを褒めて励ます」の項目以下の内容について、今回は順次紹介していきたいと思います。

⑩子どもを褒めて励ます

子どもを褒めて励ますことは、子どもを勇気づけ元気いっぱいにさせるとともに子どもの自己肯定感を育み、チャレンジ精神を養い子どもの成長に多くの良い影響をもたらします。ある研究によると、褒められた子どもは前向きな気持ちになり、様々な能力が向上すると報告されています。具体的な褒め方や励まし方についてはいくつかのポイントがありますのでそれを紹介していきたいと思います。

最初は、子どもを褒めるときは、結果だけではなく、プロセスを褒めることが大切です。

子どもを褒めるときに大切なことは、能力や性格を讃えるだけではなく、取り組んでいる過程での努力や挑戦した姿勢、やり方を工夫した点などに言及し、励ましてあげることです。一般的には、子どものすることに対しては、目の前の結果だけに目が向いてしまうことが多いのですが、子どもにとっては、結果だけではなく、努力したいろいろなことや辛くても負けずに頑張った姿勢を褒めることが重要です。例えば、「縄跳びが跳べてすごいね!」というよりも、「縄跳びが跳べるようになるまでよく頑張ったね。一生懸命やったね。」というように、頑張って努力してきたことに焦点を当てて褒めると、子どもには、とても大きな励みになります。



次に大切なことは、子どもを褒める時には具体的に褒めるということです。

「すごいね」「やったね」「上手だね」といった漠然とした抽象的な褒め言葉だけでなく、何がどうすごかったのか、具体的に言葉にして伝えるのです。例えば、積み上げたブロックについて「この赤い三角を一番上に置いたのがいいね」など、目に映ったことを具体的に子ども分かるように伝えることで、子どもは自分の行動が認められたと感ずることができるようになります。これは、子どもの意欲の維持継続にもつながります。同じような例には、「お片付けできてえらいね」「丁寧にできたね」などがあります。



また、次に大切なことは「その場ですぐに褒める」ということです。心理学ではそれを「即時評価」ということで子どもの行動を形成するのにとても大切にしています。良い行動を見つけたら、時間を置かずにその場ですぐに褒めることが大切なのです。タイミングを逃さず褒めることで、子どもは何が良かったのかをその場ですぐに理解することができるからです。

また、次に大切なことは、子どもがしてくれたことに感謝を伝えることです。

「お手伝いしてくれてありがとう」「お母さん、とっても助かったよ」というようにその場で感じた感謝の気持ちを伝えることも子どもを励ますことにとっても効果的です。子どもは自分の行いがお母さんの役に立ったと感じることで、誇らしい気持ちになるのです。子の感謝の気持ちはありがとうという言葉で表現されることが多いので、心を込めて子どもをしっかり見つめながら「ありがとう」というのです。外国の親子を見ていると「サンキュウ」という言葉がとても多いことに気づきますが、親子の信頼関係がよく伝わってきます。

次に大切なことは、子どもの存在そのものを褒めるということです。

「〇〇ちゃん大好きだよ」「生まれてきてくれてありがとう」など、子どもの存在そのものを無条件に肯定的に受け止めて褒めることも、子どもが自己有用性を感じ自己肯定感を高める上で非常に重要になります。

さらに大切なこととして、子どもが失敗した時も励ますことが必要になります。

子どもが失敗して落ち込んでいる時には、「誰にでも失敗はあるよ」「よく頑張ったね」といった励ましの言葉をかけると子どもに元気が戻ってきます。失敗してもまた頑張ろうと思える気持ちを育むことができるのです。英語では、失敗したときに「グッド ジョブ」つまり「いい仕事をしたね」といって励ましています。失敗は人間にとってはいい仕事なのです。



この「褒めて励ます上手な声かけ」とかかわって、上手な叱り方についても紹介しておきたいと思います。子どもを叱るということは、社会に適應していくために必要な知識や技術を教えるために必要なことであり、罰を与えて子どもの行動をコントロールするために行うものではありません。

子育てにおいて、上手に叱るというのは、上手に褒めて励ますことよりも難しい面も多いといえます。特に子どもが言うことを聞かないときや癇癪を起こしている時は、親もイライラしてしまって、つい感情的な対応をしてしまうこともあります。そのようなことを考えて、褒めて励ますのと同じように子どもの成長につながるように叱るためには、どのような叱り方をすればよいかということには、次のような4つのポイントがあるといわれています。

- (1) 「ダメ」「違う」ということをできるだけ使わないようにする。
- (2) 結果ではなく努力やプロセスに目を向けるようにする。
- (3) 好ましくない行動に対しては、その理由をきちんと説明するようにする。
- (4) 叱っている親の気持ちを正直に子ども伝えるようにする。

というようなことです。叱る時も褒めて励ます時と本質的に共通する部分が多く感じられると思います。

今回もまた、紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんでしたので、次回に、 ⑪一人一人の違いに応じた対応をする ⑫子どものしていることに驚きを持つ ⑬あるがままを受け入れる ⑭明るくてほほ笑みの多い保育者 ⑮ユーモアに富んだ保育者 ⑯子どもの名前を呼んであげる ⑰人として美しくなどについて紹介していきたいと思います。

